

# 報告

## 平成27年度第46回 全国学校保健・学校医大会（松山市） —平成28年度は札幌市で開催—

常任理事・地域保健部長 後藤 聡

標記大会が昨年12月5日（土）に愛媛県松山市において、「みんなで見守る子どもの成長」をメインテーマに全国から学校保健関係者約600名が参加し、開催された。

本大会は、文部科学省が主催する全国学校保健・安全研究大会に引き続き開催されている。研究大会では例年行われている文部科学大臣表彰で本道から学校医として札幌市医師会の松家治道会長と旭川市医師会の福居勝信会員が受賞された。お祝いを申し上げます。

全国学校保健・学校医大会当日は、午前中に5つの分科会が松山全日空ホテルで行われ、小職は「からだ・こころ（1）学校健診・学校教育・生活習慣病他」に参加した。

朝早くから、座席が足りなくなるほどの盛会だった。どの演題にもフロアーからも熱心な発言があり、熱い討論が繰り広げられていた。

分科会終了後には、都道府県医師会連絡会議があり、長瀬会長とともに出席した。この会議の主な議題は、次期担当都道府県医師会を決定することである。文部科学省主催の学校保健・安全研究大会が今年10月27日・28日の両日、札幌市で開催することとなっているため、すでに準備を進めていたが、本会議において次期大会が北海道で開催されることが正式に了承された。

長瀬会長は次期担当都道府県医師会長としての挨拶を求められ、10月29日に札幌市の京王プラザホテルで「みんなで築こう子どもたちの未来—考えよう学校医の果たす役割—」をメインテーマに開催する予定であることを報告した。

午後からは会場を愛媛県医師会館に移動して開会式が行われたが、ガラス張りの講堂から松山城を真正面に見上げる素晴らしいロケーションの会館であった。はじめに日本医師会長表彰の表彰式が行われ、中国・四国ブロック各県医師会より推薦のあった学校医、養護教諭、学校関係栄養士それぞれが受賞した。本表彰は、毎年開催地のブロック内の医師会か

ら推薦のあった学校医等が表彰されているため、北海道からの受賞者は44年前にさかのぼることとなり、次期大会での選考方法などを早急に検討しなければならない。

シンポジウムは「学校保健における小児慢性疾患」をテーマに行われ、愛媛大学大学院医学系研究科小児科学の石井榮一教授から「小児の慢性疾患治療の現状と課題：小児がんを中心に」と題し基調講演があった。その後、循環器疾患、アレルギー疾患、内分泌疾患、神経疾患について4名によるシンポジウムが行われ、学校生活上の対応状況やそれぞれの専門分野で抱えている課題等が報告された。

特別講演は、松山赤十字病院胃腸センター所長で第一消化器内科の蔵原晃一郎氏が「ピロリ菌検査の学校健診への導入：胃癌撲滅に向けて」をテーマに行った。本件については本道においても北海道大学病院や渡島医師会が積極的に取り組んでおり、当会からも北海道や北海道教育委員会に対して要望書を提出するなどしているが、全国的な流れに発展し、学校健診への導入が早期に実現することを期待したい。

最後に、当会の長瀬会長より当日行われた都道府県医師会連絡会議での決定を受け、平成28年度の大会は北海道医師会担当で開催することを北海道のPRを兼ねて次期担当都道府県医師会としての挨拶を行い全国から多数の参加を呼び掛けた。



北海道大会の開催まで残すところ半年余りに迫ってきたが、4月から新たにスタートする学校健診の問題点等さまざまな課題が分科会を中心に議論されることになると思われる。

当会では今後大会実行委員会を設置するなどして具体的なプログラムを作成し、主催者である日本医師会と連携の上、大会の成功に向け準備を進めてまいる所存であるので、会員各位には大会への参加と協力をお願いしたい。